特集

プレカット(上)

大手間で本格的な競争の時代

九州で設備投資が活発化

プレカット工場は消費税10%への駆け込み需要を見込んでいたが、これが先送りとなった。目先は緩やだが住宅着工は増加傾向を続けている。需要環境としては決して悪くはなく、消費税の駆け込みとその反動で揺さぶられるよりはましな環境が続いている。

プレカット工場を経営する企業動向では、九州地区が注目されている。熊本地震により今後、復興需要が見込まれることに加えて、九州の大手が積極的な事業展開を進めている。

OCHI・ホールディングスが西日本プレカットセンター（広島県）を買収し、佐賀、広島、兵庫でのプレカット加工拠点を整備。ワイテックは木造住宅が増加する沖縄にプレカット工場を建設する計画で、福岡工場には羽柄材加工機を導入する。中国木材は伊万里プレカット工場を新設する。そこにポラテックが九州に工場進出計画を具体化させる計画を打ち出し、にわかに騒がしくなってきた。

プレカット工場は大手対中・小工場という図式から大手間の本格的な競合の時代を迎えたといえそうだ。

新設住宅着工は人口動態、住宅ストック数など考慮すると今後減少が避けられない。新設住宅に依存するプレカット工場は市場の縮小に対してはシェア獲得を目指しての受注強化と新市場への対応。新市場は非住宅木造建築物、中・大規模木造建築物に大きな期待が掛かっている。

しかし、マクロ経済から木造住宅市場をベースにした事業に成長性を見いだせなくなると、そこから離脱する動きも加速する。昨今、大手が工場を売却するという噂が絶えないのは、業界環境に起因するものと見られる。

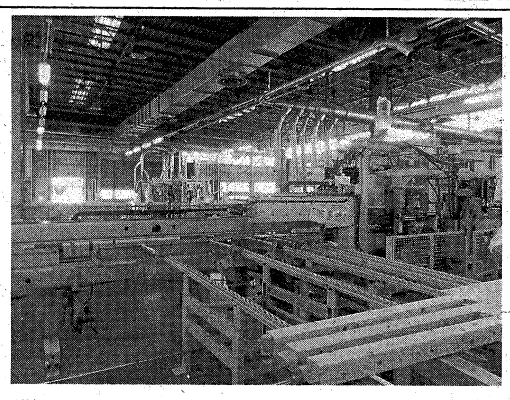
しかし、木造住宅の市場が拡大しなくとも戸建て住宅市場では木造住宅生産のインフラとして機能している。プレハブ住宅メーカーのように自前で販売から生産まで一貫した体制を維持するのと比べてオープンな生産システムとしてのプレカット工場の可能性がある。

そのためプレハブ住宅会社が木造住宅に参入する動きは続いており、そのシステムを活用して低層の鉄骨造の建築市場を木造に置き換えていこうという動きは理にかなったものともいえそうだ。（特集は10面まで）

取引先拡充で1200社超に

設備と人員にも注力

テクノウッドワークス



高稼働を続ける本社工場

プレカット大手のテクノウッドワークス（TWW、栃木県鹿沼市、早川孝男社長）の2015年加工坪数は49万1035坪（前年比22・4%減）となった。加工設備や能力に大きな変更はないが、15年初からパワービルダーとの取り引きを改めたことで加工量が落ち込んだ。ただ、昨春策定した中期計画で人員拡充と設備投資を柱に据え、従来からの住宅用プレカット加工という本業を強化する方針を固めており、材木店等の地場需要主体で収益基盤を変更している。

TWWの16年12月期売上高は125億円（前期比13・6%増）で増収増益見込み。今年1月から工場は24時間稼働（土日休み）で、このまま受注が続くと今期売上高130億円程度の上方修正となる。関連子会社のテクノONE（真岡市、同）の16年7月期売上高は15億円を見込み、地場需要を中心に受注をまとめ稼働率向上に取り組んでいる。

両社とも材木店等の地場需要で営業増強を図る方針に変更はなく、2年前の取引先は850社だったが現在は1250社まで増強し、営業基盤の強化を図っている。

TWWは住宅用プレカットという本業に改めて力を入れているが、先行きの住宅市場はもちろん厳しさを予想している。しかし、これまでに培った価格競争力とプレカット品質でシェア拡大は十二分に可能という見通しを立て、価格競争力の追求と高品質プレカット材の加工という2大テーマを両立していく。

現在、従業員数（国内）は262人（グループ全体で385人）で、パートや派遣社員は特別な希望がない限りいない。社員能力が企業成長の根幹にあるという認識で人材拡充と教育に取り組んでおり、5年後には600人体制を構築する目標。社員研修を主目的に栃木県内に山林を購入するなど、福利厚生の整備にも力を入れている。

新規設備面では、既存工場内でこれ以上新設ラインを増やすスペースがないため、数年以内に県内で新設大型工場を建設する用地確保にも取り組んでいる。

来年2月新伊万里工場が完成

羽柄材の加工増える

中国木材

中国木材（広島県呉市、堀川智子社長）は、伊万里工場（佐賀県伊万里市）郷原工場（呉市）名古屋工場（愛知県弥富市）東海工場（静岡県焼津市）と同社100%子会社の光プレカット（岡山市）の5工場を持つ。非住宅の受注が増えつつあり、設備の充実はじめ販売強化を図っている。

伊万里工場が手狭になったことから、伊万里事業所敷地内に新たなプレカット工場を建設しており、来年2月に完成する予定だ。金物併用の構造加工ラインを増設し、設備の充実、九州地域での販売強化を図る。

伊万里工場内の新プレカット工場イメージ図（写真の中央上部）

従来の工場は構造用加工2ライン体制で生産能力は6000坪。金物加工ができないことから通し柱だけ手加工を行ってきた。しかし、新工場では金物併用ラインの増設で計3ライン体制になり、生産能力は1万坪になる。羽柄・パネル加工は2ラインで現状維持。ただ、工場は広くなることから増設が可能だ。

また、同工場は非住宅物件が多く売上高の25%を占める。デイサービスや学校、アパートなどの大・中型木造物件が多く、ラインの増設に伴い梁せい600ミリまで加工できる多種加工機も導入し計3台になる。また、名古屋工場では昨年12月末に構造加工ラインを入れ替え、生産能力は900坪（従来は700坪）になった。

全工場のプレカット部材の加工量は、2015年7月～16年3月の累計で構造材5%増（前年同期比）に対して羽柄20%増、パネル10%増となった。この数年、人手不足により構造材と羽柄材セットの加工が増えているほか、大型物件は羽柄やパネルの加工の採用が多くなる。

5工場のうち、大型物件（同社基準で70坪以上）の受注は、土地が安く平屋建てが目立つ地域の伊万里工場が最も多いが、5工場全般で伸びている。5工場合計で前年比15%増、坪数で20%増となった。今後もトラス工法等によりスパンを飛ばすなど非住宅分野の販売強化を図る。

また、CAD要員の増員が課題であり、毎年ベトナム人技術者を採用し、人員の増加を図っている。

次の成長にあなたの力が必要です

2000年3月に生まれた当社は、15年余で国内有数のプレカット工場に育てられました。これも当社を支えていただいた一人一人の大切な御客様があってこそです。同時に、当社で汗を流し続ける社員が成長の源でもあります。

テクノウッドワークスは次の成長に向けて始動しました。あなたの力が次の躍進に必要不可欠です。我々と一緒にさらなる高みに挑みませんか。

当社は人員拡充の一環で福利厚生に力を入れています。社内研修や福利厚生として栃木県内で新たに6haの山林を購入し、企業価値の向上に取り組んでいます。

社員募集中　中途大歓迎

テクノウッドワークス株式会社
鹿沼工業団地内　TEL 0289-72-0108

株式会社テクノONE
真岡工業団地内　TEL 0285-81-1030

ている。そのなかで安全・安心なプレカット

た。16年度は組織の強化

7回目となる通常総会（タミヤ社長）を選を開いた。役員改選期出。防火性能や省エネ

ネ政策も追い風となっている。この機会をと

懇親会が行われた。

について講演。その後

術をベースに高いデザイン性と品質を追求

新設の福岡ショールーム

階。電話092・432・9100。

42・27・747 0）まで。